

# 中山間地域における定住促進に関する基礎的研究

— 広島県北広島町を事例として —

M041988 梅本孝宏

## 1. 研究の目的

中山間地域における定住人口の維持3要件のうちの「生活環境」について取り上げる。特に、転出先及び現在の居住地、二地域居住やUターンの可能性、定住促進施策について明らかにする。

## 2. 研究の方法

### 2-1 人口移動実証分析(第2章 定住促進に関する人口移動実証分析)

広島県人口移動統計調査の結果を用い、北広島町からの転出先を明らかにする。

### 2-2 アンケート調査(第3章 定住促進に関する意識調査)

広島市居住者にアンケート調査を実施し、地域活動等への関心、二地域居住やUターンの可能性、北広島町に求める施策の3項目を中心に分析する。

### 2-3 行政施策(第4章 定住促進に関する行政施策)

公共施設状況調などを用い、基盤整備の累積をまとめ、近年の実績と比較するとともに、アンケート調査の結果と比較検討する。

## 3. 結果及び考察

### 3-1 各章において得られた知見

#### (1) 転出先と現在の居住地(第2章, 第3章)

北広島町からの転出超過の93.1%が広島市1市へ集中している。アンケート調査結果から転出者は広島市安佐北区及び安佐南区に多く居住しており、重点的に定住促進施策を実施すべき地域が明確になった。

#### (2) 地域コミュニティの維持(第3章)

転出者は地域づくりやボランティア活動に関心があることがわかった。二地域居住やUターンした場合、地域コミュニティ維持の一助となることが期待できる。

#### (3) 二地域居住やUターンの可能性(第3章)

二地域居住やUターンの推進が難しいことが明らかになった。北広島町への二地域居住やUターンを考えているとした方は、安佐南区及び安佐北区に居住しており、農地・住宅の有無が重要であることがわかった。

#### (4) 北広島町に求める施策(第3章)

北広島町に求める施策の上位は、移動手段に関する事、医療に関する事であった。この傾向は合併前

の町民アンケートの結果と類似する。異なる項目は、道路整備に関する事である。

#### (5) これまでの施策と今後の展開(第4章)

##### (a) 移動手段に関する事

デマンドタクシーの運行が始まり、ひとつの対策がとられている。今後の動向を注視する必要がある。

##### (b) 医療に関する事

過去の事業により、日常的医療は充足された。しかし、重症患者に対応する二次救急医療や産科・小児科は依存している。これらを町内で担う仕組みとその運用について費用対効果の検討が必要。

##### (c) 道路整備に関する事

基本的整備は完了し、維持管理・部分改良の段階にある。基本的整備が整った今、道路整備は直接に定住促進にはつながらないことを認識する必要がある。

### 3-2 対内的施策と対外的施策

#### (1) 対内的施策

これまでに、生活、及び定住促進施策のための最低限必要な基盤整備は完了している。これからは、将来住む人の声を施策に反映するよう努める必要がある。

#### (2) 対外的施策

転入施策の対象が明確になり、効率的・効果的な展開が可能になることが明らかになった。

## 4. 今後の課題

### 4-1 研究上の課題

#### (1) 人口移動について

広島県人口移動統計調査の限界である、複数回の移動について把握できず、転出者を個別に追跡出来ない。

#### (2) 定住促進要件について

先行研究における、定住促進の3要件のうちの所得水準と就業条件については今後の課題としたい。

### 4-2 行政上の課題

#### (1) 医療に関する事

救急医療、産科・小児医療について確保が必要であるが、北広島町単独の場合、他に依存し輸送手段確保にとどめるべきか、費用対効果の検討が必要である。

#### (2) 就業条件に関する事

工業団地への企業を誘致は、町単独では難しく、広島県との連携が必要であり重要な課題となっている。